

株主・投資家の皆様へ

第**24**期 中間事業報告書
2007年4月1日 ≫≫ 2007年9月30日



お客様、社会から必要とされる 企業であり続けるために

社会と共に繁栄すること
ユーザーから真に信頼されるサービスを提供すること
使命感と活気ある人材に満ちあふれること
常に新しい技術を取り入れ蓄積し、
社会のニーズに対応すること
健全成長を基調とする
超一流を目指す気品ある社風を築くこと

Q 中間期の業績はいかがでしたか？ また、今期の見通しについてお聞かせください。

当中間期の業績は、売上高2,828百万円、営業利益118百万円、経常利益126百万円、中間純利益69百万円と、前中間期と比べ増収減益となりました。

積極的な営業活動により売上高は前中間期と比べ13%増となりましたが、受注時期がずれたことにより稼働率が低下したことや、不採算案件の発生、管理部門の強化などにより減益となりました。当社のようなシステム開発会社の業績は、下期偏重型が特徴です。株主の皆様には大変ご心配をおかけしましたが、企業の情報系システムへの投資意欲は依然として高く、当社のコア事業である*1グループウェアソリューション事業の当中間期売上高は前中間期と比べ24%増の841百万円と好調に推移しています。当社は引き続き、成長分野や増益が顕著な領域に経営資源を集中すると共に、積極的な営業活動を展開することで通期業績予想の達成に向け全社一丸となって努力し、株主の皆様のご期待にお応えしたいと考えています。

Q 当中間期は*2 CRM/SFA事業を譲り受けられ、 また、SAP ERP対応会計伝票入力画面テンプレート 「コムチュアAssist UI」を発売されました。 目的や今後の戦略についてお聞かせください。

この7月に株式会社ピクシス情報技術研究所からCRM/SFA事業を買収し、「コムチュアCRM/SFA」製品の販売を開始しました。この「コムチュアCRM/SFA」は、IBM社のミドルウェアである「*3 Lotus Notes/Domino」をプラットフォームとしており、1997年の発売以来、業種業界を問わず700例を越す圧倒的な導入実績を誇るCRM/SFAソフトウェアです。また、9月にはSAP ERPシステムの画面操作性を向上させる自社プロダクト「コムチュアAssist UI」をリリースいたしました。この製品は、SAP ERPシステムをお使いのお客様からカスタマイズ要望の高かった会計伝票入力画面をテンプレート化したものです。おかげさまで製品発表以来、多くのお客様からお問い合わせを頂戴しています。当社では、IBM社の「Lotus Notes/Domino」や*4 SAP社の*5 ERPシステムなど幅広く支持を得ているシステムを活用するためのソリューションサービスを提供しています。当社のプロダクトはこれらソリューションサービスを提供する上でのエンジン部分の役割を果たします。お客様企業に短納期で、より効果的なソリューションサービスを提供するためには当社のプロダクトは欠かすことが出来ません。今後も、CRM/SFA事業のような積極的なM&Aも視野に入れながら当社のプロダクトのラインナップの拡充を図り、ビジネスチャンスを広げていきたいと考えています。

情報系のシステム投資は、今後も益々増えそうですが、グループウェアソリューション事業を中核とした事業展開についてお聞かせください。



業務効率の改善を目指した企業内の情報の共有化やノウハウの活用など、企業の情報系システム投資意欲はますます高まる傾向にあります。グループウェアソリューションサービスは、正にこのオフィスワーカーの業務効率の改善や生産性向上を支援するツールです。しかしながら、企業内の情報共有やノウハウの活用だけでは充分ではありません。多くの企業が、有給休暇の申請や交通費等の精算といったものから、稟議書のような申請・承認業務を未だに書面でしています。これをシステム化することによって業務効率が改善されるだけでなく、ビジネスフローが構築され、コンプライアンスへの備えやJ-SOX法対応も可能となります。当社は、グループウェアソリューションサービスを通して、こうしたお客様企業の情報系システム構築を日本最大級の技術者数で支援していますが、今後は情報系システムと基幹系システムの連携が重視されてくると考えています。当社では、情報系のシステム投資の次を見据え、SAP ERP（基幹業務）システムと情報系システムである営業支援システムを連携させた社内システムを構築しています。当社ソリューションサービスをショーケース化することで、お客様企業の次のニーズに迅速に対応する体制を整えたいと考えています。

JASDAQ上場から半年が過ぎましたが、会社はどのように変わってきましたか？



「上場企業」という言葉の重みを改めて実感しています。「上場すると周りの見目が違って来る」とよく言われましたが、その違いに大変驚くと共に、上場企業としての責任を痛感しています。まず第一に、お客様

の当社を見る目が変わってきたと感じています。上場会社となった当社のソリューションサービスにますます期待されていると感じています。また、当社は新卒採用と継続的な中途採用を行っています。応募者数が増えました。これもうれしい上場効果です。社員一同、お客様企業のご期待に応えるべく活気づいています。私は、お客様や社会のご期待に応えるためには、技術変革に備え絶えざる自己研鑽に努めなくてはならないと思っています。コムチュアの社員の思いも同じです。コムチュアにとって上場は一つの通過点に過ぎませんが、これを契機として「良い会社になる」「良い仕事をする」ために社員と共により一層努力し、当社の企業価値をさらに高めてまいります。



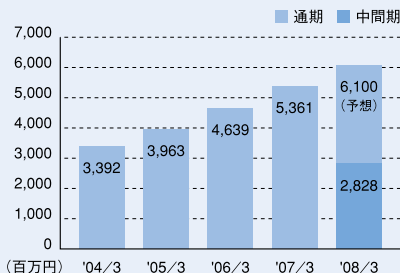
株主・投資家の皆様へメッセージをお願い致します。

コムチュアの企業価値向上は、株主の皆様のご期待に応えることと思っています。コムチュア流CS活動である「お客様のささやきをカタチにしてお返しする」仕組みを通して、タイムリーにお客様企業のご要望をプロダクトやサービスといったカタチにしてお客様へお返しすることで顧客満足度の更なる向上を図り、コムチュアの企業価値向上に精一杯努めてまいります。株主、投資家の皆様には、引き続き長期的な視野でのご支援をお願い申し上げます。

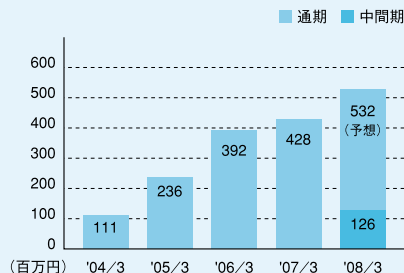
■ 注記

- ※1 グループウェア：グループ内の情報共有や社内の承認・決裁などの業務の効率化を支援するソフトウェア
- ※2 CRM/SFA：顧客情報管理/営業支援システム
- ※3 Lotus Notes/Domino：IBM社のグループウェアのミドルウェア
- ※4 SAP社：ERP（統合型ソフトウェア）最大手のソフトウェアメーカー
- ※5 ERPシステム：経営の効率化を図るための統合型（業務横断型）ソフトウェア

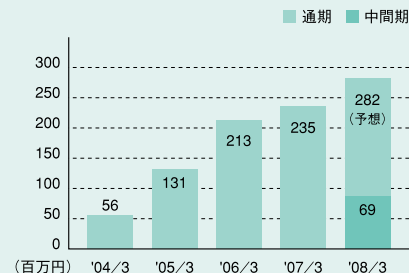
■ 売上高 ■



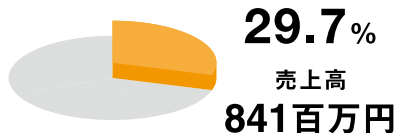
■ 経常利益 ■



■ 当期純利益 ■



グループウェアソリューション事業



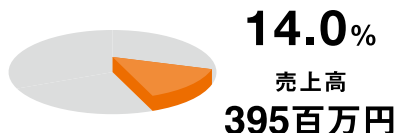
事業概要

グループウェア製品を利用したシステム企画、要件定義、アプリケーション開発から保守、運用サービスまでを一貫して提供しています。自社プロダクトをコアとしたソリューションサービスを提供することにより、情報共有システム環境の効率的かつスピーディな提供を可能にしております。

【自社プロダクト】



ERPソリューション事業



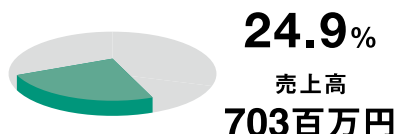
事業概要

ERPパッケージを利用したシステム企画、要件定義、カスタマイズ、アドオン開発から保守までのサービスを提供しています。SAP ERPを中心としたソリューションが事業の中核であり、特に人事管理、財務会計／管理会計、販売管理／購買管理に関する豊富な経験を持っております。

【自社プロダクト】



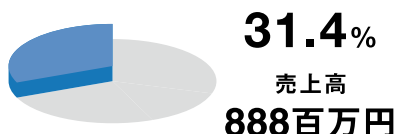
Webソリューション事業



事業概要

インターネット環境を利用したシステム構築、アプリケーション開発から保守までのサービスを提供しています。インターネット環境を利用したオーダーメイドのシステムや、グループウェア／ERPシステムを連携、または補完するシステムなど、多業種・多業務にわたるシステム開発を行っております。

ネットワーク運用サービス事業



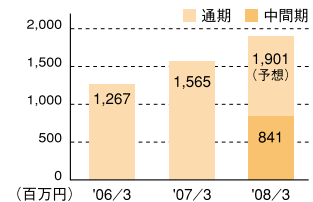
事業概要

ネットワークサービスは、サーバシステムからメインフレームまで幅広いプラットフォームの設計・構築・運用支援（監視業務・ヘルプデスク）等のサービスを提供しています。またマネージドサービスではリモート操作による統合監視を、当社センタで24時間365日サービスを提供しています。

業績概要

ポータル関連のシステム構築を軸に拡大基調にあり、売上高は、841百万円（前年同期比24.4%増）となりました。一方、ユーザ企業の事情により受注時期がずれたために稼働率が低下したこと、不採算案件が発生したこと等により売上総利益は119百万円（前年同期比24.6%減）となりました。

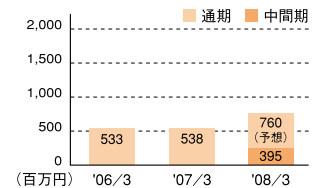
売上高推移



業績概要

旺盛な引き合いを受け、また事業区分の見直しの影響により売上高は、395百万円（前年同期比49.0%増）、売上総利益は、70百万円（前年同期比35.2%増）となりました。当中間期には、中堅企業向けSAP ERP対応の会計伝票入力テンプレート「コムチュアAssist UI」を発売いたしました。

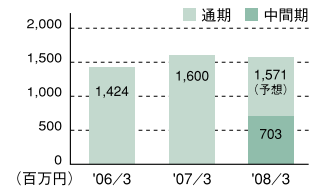
売上高推移



業績概要

事業区分の見直しの影響により、売上高は、703百万円（前年同期比5.7%減）、売上総利益は116百万円（前年同期比4.7%減）となりました。見直しをした案件は、いずれもWeb環境を利用したシステムですが、より実態に即した事業区分とするためにそれぞれグループウェアソリューション事業、ERPソリューション事業への組替えを実施しました。

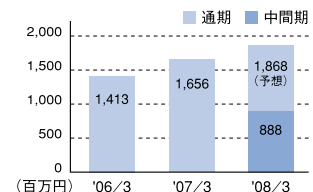
売上高推移



業績概要

インフラ構築や設備提供サービスのマネージドサービスなどの拡大が貢献し、売上高は888百万円（前年同期比9.2%増）、売上総利益は140百万円（前年同期比3.2%増）となりました。

売上高推移

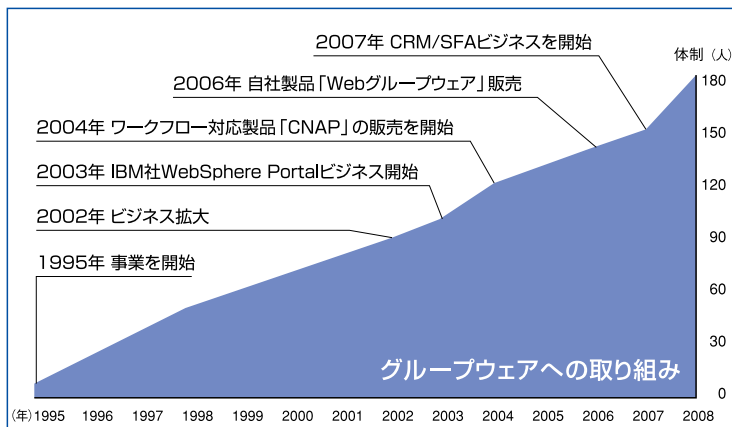


グループウェアを中核として、戦略的に事業を展開しています。

情報サービス産業市場全体の伸び率は、近年、鈍化する傾向にあります。その中で、グループウェア市場の2004年から2006年までの年間平均成長率は、12%から13%を記録し、今後5年間の平均成長率は10%程度と予測されているなど、相対的に大きな伸びが期待されています。当社は、1995年より情報系システム分野に着目し、グループウェアソリューション事業を中核として事業を展開してまいりました。4つの事業が連携しながら、ユーザ企業にサービスを提供し、業務効率・生産性の向上や経営の効率化を支援しています。また、より効果的なソリューションサービスを提供するため、数々の導入実績を集大成した自社製品を活用しグループウェア製品とあわせて提供することで、情報共有システム環境の効率的かつスピーディな提供を可能にしております。

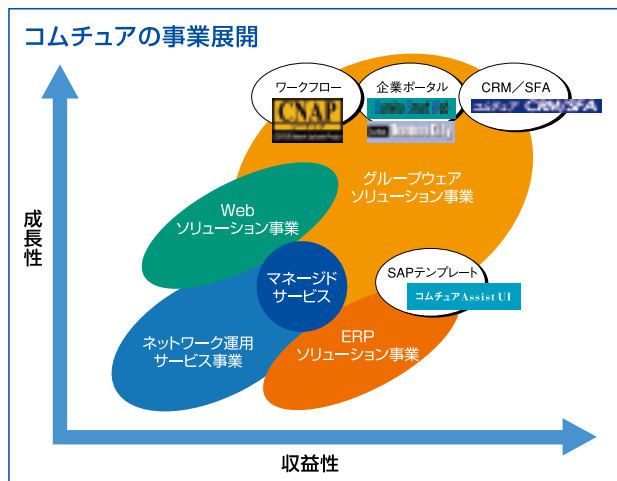
■ 経験豊かなグループウェアへの取り組みと豊富な人材

1995年のスタート以来、順調に取り扱い製品・範囲を拡大し、2008年3月期末には180人体制（日本最大級）を目指します。



■ 顧客の「ささやき」をカタチに変える卓越した提案力

営業の現場でお客様の「ささやき」を吸い上げ、当社の組織力で解決策を練り上げて提案書などの「カタチ」にしてお返しする取り組みを通じて顧客満足度を高めています。（コムチュア流CS活動）



■ 実績のある自社プロダクト

- 日本企業の複雑な承認システムに対して柔軟に適用可能な電子承認システム。本格的なワークフローを容易に構築できます。
- Webブラウザ利用をベースとし企業内の業務効率化に必要なアプリケーションを装備した、短時間で実現する即効グループウェアパッケージです。
- 地方自治体における業務や慣習を考慮し、通常のグループウェアの機能に加え、業務支援アプリケーションを実装したグループウェアパッケージです。
- 圧倒的な実績をもとに顧客起点の経営を実現し、企業競争力をアップするCRM/SFAソリューションです。

■ 大手企業との安定した取引基盤

特定の業種、企業に偏らない安定的な取引基盤を有しており、安定的な収益が期待される他、各顧客に対して、更なる深堀が期待できます。

■ グループウェアとは？

グループ内の情報共有や社内の承認・決裁などの業務の効率化を支援するソフトウェア

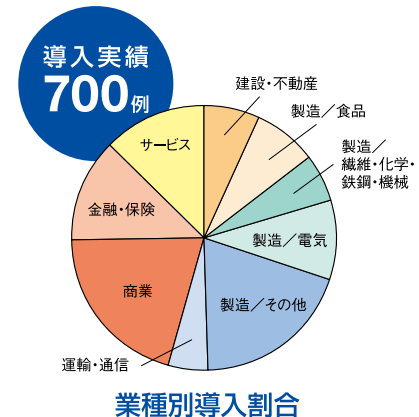
TOPICS 「コムチュア CRM/SFA」

IBM Lotus Notes/Dominoを主要プラットフォームとし、幅広い業種において700以上の圧倒的な導入実績を誇るCRM/SFAソフトである本製品を株式会社ピクシス情報技術研究所から取得し、7月1日から販売・サービスの提供を開始しました。

【特徴】

- 営業スタイルに合わせて選べる6つのテンプレートを提供
- 業務に精通している現場主導型開発が可能なプロトタイプ手法を採用
- 最短2ヶ月でオリジナルCRM/SFAシステムを構築し、メール、スケジュール、ワークフローなどと連携
- 社内ポータル構築

今回「コムチュアCRM/SFA」をラインナップに加え、これに当社のノウハウと実績を融合させ「顧客基点の経営」の実現を強力にバックアップしてまいります。



TOPICS 「コムチュア Assist UI」

SAPジャパン株式会社のERPソリューション／パッケージソフト「SAP ERP」での会計伝票入力／伝票承認作業をWebブラウザで容易／効率的に操作できる画面テンプレートを開発し、9月27日より出荷を開始しました。

【特徴】

- ユーザフレンドリーなインターフェース
- クライアント側にソフトのインストールが不要
- 独自開発と比べ 1/3の費用で操作性の高い入力環境の構築が可能

今後3年間で3億円の売上を目指すと共に、さらにユーザ企業の業務効率化に貢献する機能を順次強化し、提供してまいります。

TOPICS 「IRモバイルサイトの開設」

当社IR情報を携帯電話からご覧頂けるWebサイトを開設しました。
下記URLもしくはQRコードにてアクセス下さい。

モバイル用URL: <http://m-ir.jp/c/3844/>



財務諸表（単体）

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております

■ 中間貸借対照表（要旨）

単位:百万円

	当中間期 (平成19年9月30日)	前中間期 (平成18年9月30日)	前期 (平成19年3月31日)
【資産の部】			
流動資産	1,599	1,440	1,746
固定資産	706	549	608
有形固定資産	273	249	274
無形固定資産	193	50	71
投資その他の資産	240	249	262
資産合計	2,306	1,989	2,354
【負債の部】			
流動負債	906	1,183	970
固定負債	126	160	144
負債合計	1,033	1,344	1,115
【純資産の部】			
株主資本	1,271	642	1,237
資本金	308	71	308
資本剰余金	248	11	248
利益剰余金	713	559	679
評価・換算差額等	1	2	2
その他有価証券評価差額金	1	2	2
純資産合計	1,273	645	1,239
負債純資産合計	2,306	1,989	2,354
1株当たり純資産(円)	72,751.17	44,500.03	70,840.19

■ 中間損益計算書（要旨）

単位:百万円

	当中間期 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)	前中間期 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	前期 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)
売上高	2,828	2,501	5,361
売上原価	2,381	2,032	4,358
売上総利益	447	469	1,002
販売費及び一般管理費	328	276	559
営業利益	118	192	443
営業外収益	8	9	26
営業外費用	0	2	41
経常利益	126	199	428
特別利益	6	-	4
特別損失	1	-	-
税引前中間(当期)純利益	130	199	433
法人税、住民税及び事業税	73	99	200
法人税等調整額	△11	△15	△2
中間(当期)純利益	69	114	235
1株当たり中間(当期)純利益(円)	3,946.91	7,927.65	16,094.83

POINT !

■ 貸借対照表

総資産は、前事業年度末に比べて48百万円減少し、2,306百万円となりました。主な要因としては、売掛金の増加42百万円、株式会社ピクシス情報技術研究所からの事業譲受を主要因としたソフトウェアの増加80百万円、社内システム構築に係るソフトウェア仮勘定の増加26百万円があった一方、現金及び預金が229百万円減少したことによるものです。

負債については、未払法人税等が48百万円、買掛金が11百万円、長期借入金が10百万円それぞれ減少し、前事業年度末に比べて82百万円減少し、1,033百万円となりました。

純資産については、配当金の支払が35百万円あったものの、中間純利益が69百万円となったことから、前事業年度末に比べて33百万円増加し、1,273百万円となりました。その結果、自己資本比率は55.2%となりました。

POINT !

■ 損益計算書

グループウェアソリューション事業では、ポータル関連のシステム構築を軸に拡大基調にあり、売上高が前年同期比24.4%増になったこと、ERPソリューション事業では旺盛な引合いを受け、売上高が前年同期比49.0%増となったことなどにより、売上高は2,828百万円(前年同期比13.1%増)となりました。

売上高は、順調に推移したものの、受注時期がずれたことによる稼働率の低下およびグループウェアソリューション事業において不採算案件が発生したこと等により、営業利益は118百万円(前年同期比38.5%減)、経常利益126百万円(前年同期比36.8%減)、中間純利益69百万円(前年同期比39.9%減)となりました。

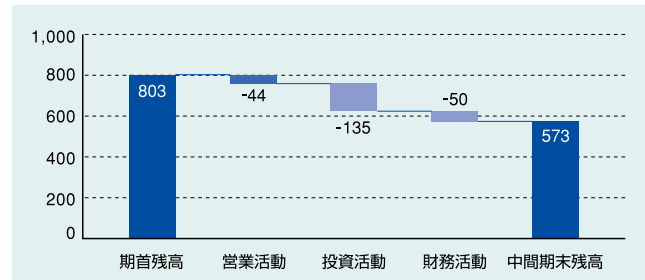
■ 中間キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:百万円

	当中間期 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)	前中間期 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	前期 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△44	111	313
投資活動によるキャッシュ・フロー	△135	2	△83
財務活動によるキャッシュ・フロー	△50	△53	92
現金及び現金同等物の増減額	△229	60	323
現金及び現金同等物の期首残高	803	479	479
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	573	540	803

■ キャッシュ・フロー推移グラフ

単位:百万円



POINT !

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前中間純利益が130百万円生じた一方、売上高の増加に伴う売上債権の増加額が42百万円あり、また、法人税等の支払額が116百万円および役員賞与の支払額が11百万円あったこと等から、当中間会計期間において、営業活動の結果使用した現金及び現金同等物は前年同期比156百万円増加し、△44百万円(前中間会計期間111百万円)となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

社内システム構築での無形固定資産の取得による支出および有形固定資産の取得による支出等が増加いたしました。また、株式会社ピクシス情報技術研究所からの事業譲受による支出等があったことから、当中間会計期間において、投資活動の結果使用した現金及び現金同等物は前年同期比137百万円支出が増加し、△135百万円(前中間会計期間2百万円)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金支払による支出が35百万円ありましたが、長期借入金の返済による支出が前年同期比16百万円減少したこともあり、当中間会計期間において、財務活動の結果使用した現金及び現金同等物は前年同期比3百万円減少し、△50百万円(前中間会計期間△53百万円)となりました。

■ 中間株主資本等変動計算書 当中間会計期間(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

単位:百万円

	株主資本								評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				株主資本 合計	其他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金							利益剰余金 合計
				特別償却 準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金						
平成19年3月31日残高	308	248	248	13	1	100	564	679	1,237	2	2	1,239
中間会計期間中の変動額												
特別償却準備金の取崩					△0		0	-	-			-
剰余金の配当							△35	△35	△35			△35
中間純利益							69	69	69			69
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)										△0	△0	△0
中間会計期間中の変動額合計	-	-	-	-	△0	-	35	34	34	△0	△0	33
平成19年9月30日残高	308	248	248	13	0	100	599	713	1,271	1	1	1,273

■ 会社概要

- 会社名
コムチュア株式会社
(英文会社名:COMTURE CORPORATION)
- 証券コード
3844 (JASDAQ)
- 本社所在地
東京都品川区大崎一丁目11番2号
- ホームページ
<http://www.comture.com/>
- 設立年月日
1985年1月
- 公開年月日
2007年3月20日
- 資本金の額
3億890万円
- 決算期
3月
- 営業所
大阪
- 従業員数
451名

■ 取締役及び監査役

代表取締役社長	向 浩一
常務取締役	藤田 和彦
常務取締役	松井 章
取締役	福田 豊次
取締役	島 勝久
取締役	金岡 洋二
取締役	田村 誠二
監査役	壁谷 勝彦
監査役	的場 淳

■ 沿革

- 1985年1月 東京都港区三田に資本金600万円にて株式会社日本コンピューターテクノロジーを設立
ソフトウェア開発を開始
- 1990年5月 システム運用サービス事業を開始
- 1995年4月 グループウェアソリューション事業を開始
- 1996年4月 ERPソリューション事業を開始
- 1999年4月 JavaによるWebシステムの受託開発を開始
- 2000年7月 サーバセンターを開設し、マネージドサービスを開始
- 2002年1月 コムチュア株式会社に商号変更
- 2004年2月 本社を東京都品川区に移転
大阪市西区に大阪営業所を開設
財団法人日本情報処理開発協会からプライバシー
マークを取得
- 2004年9月 ISO9001 認証を取得
- 10月 ソニーグローバルソリューションズ株式会社から、
グループウェアパッケージソフト「GNAP」に関する
諸権利を取得、販売を開始
- 2006年7月 日本アイ・ビー・エム株式会社とIBM OEMソフト
ウェア契約を締結
- 8月 SAPジャパン株式会社とSAPサービス・パートナー
契約を締結
- 2007年3月 株式会社ジャスダック証券取引所株式上場
- 7月 株式会社ピクシス情報技術研究所からCRM/SFA
事業を譲受
- 9月 「コムチュア Assist UI」製品出荷

■ 将来予測に関する記述についての注意事項

本事業報告書の将来予測に関する記述および客観的事実以外の記述に関しましては当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

実際の業績は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向、為替レートなどにかかわる様々な要因により、記述されている事業予測とは異なる可能性があることをご承知おきください。

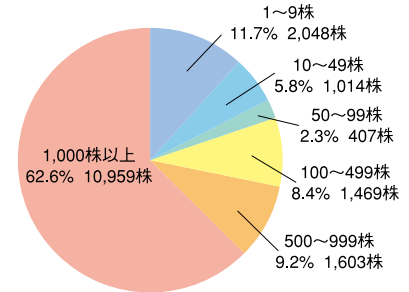
■ 株式の状況

発行可能株式総数	58,000株
発行済株式総数 (普通株式)	17,500株
株主数 (普通株式)	1,201人

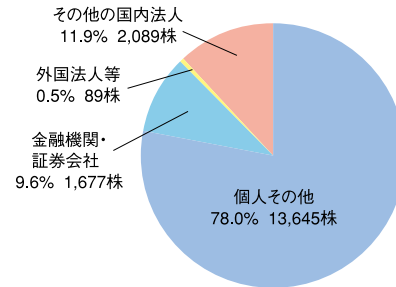
■ 大株主

株主名	持株数	出資比率
向 浩一	7,860株	44.92%
向 容子	1,070株	6.11%
コムチュア社員持株会	1,029株	5.88%
有限会社コム	1,000株	5.71%
日本証券金融株式会社	603株	3.44%
株式会社三菱東京UFJ銀行	500株	2.85%
エヌ・ティ・ティ・データ・ジェトロニクス株式会社	500株	2.85%
TIS株式会社	400株	2.28%
三菱UFJキャピタル株式会社	150株	0.85%
日本証券金融株式会社 (業務口)	119株	0.68%

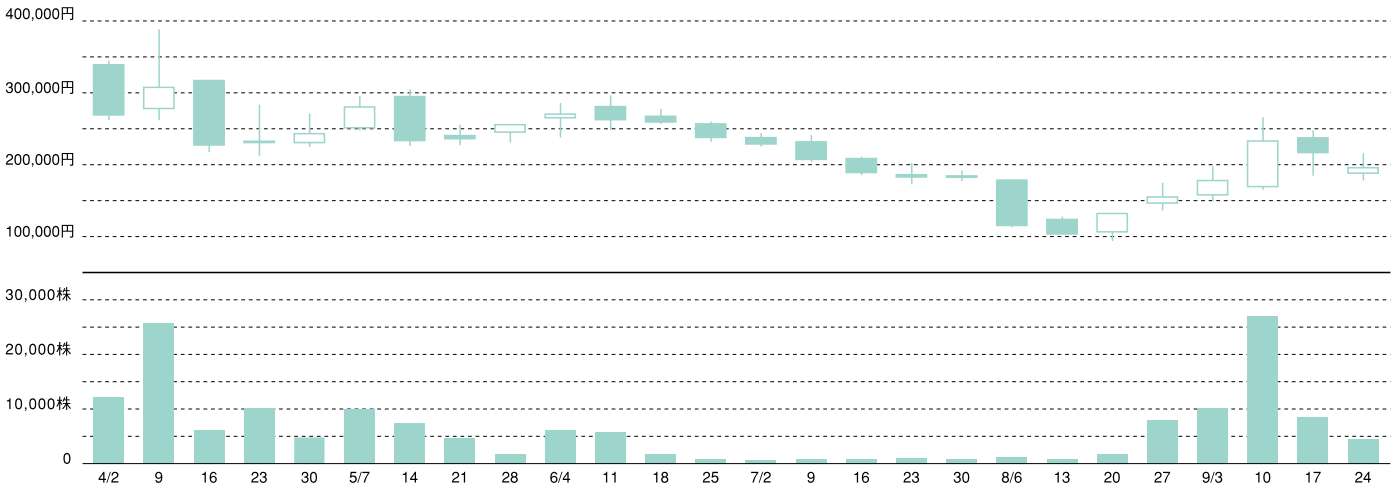
■ 所有株数別分布状況



■ 所有者別分布状況



■ 株価・出来高の推移 (週足)



■ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
配当金受領株主確定	3月31日および中間配当の支払いを行うときは9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	株式事務手続き用紙のご請求 (0120) 244-479 その他のご照会 (0120) 232-711
(ホームページ)	http://www.tr.mufg.jp/daikou/
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 但し、やむを得ない事由により電子公告をすることが できない場合は、日本経済新聞に掲載します。

IR情報のご案内

IR情報につきましては、当社のホームページにも掲載されております。

<http://www.comture.com/ir/>



コムチュア株式会社
COMTURE CORPORATION

東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー8F 〒141-0032
Phone : 03-5745-9700 Fax : 03-5745-9715